

県立広島病院 院内がん登録2015年症例実績報告

山本 稔昭¹⁾
村上 久¹⁾

前田 美和¹⁾
西阪 隆²⁾

藤田紀久子¹⁾
福島 典之³⁾

I. はじめに

当院では院内がん登録を2007年から開始し、今年度(2015年)末で9年が経過した。その間、院内がん登録の登録項目の1つであるTNM分類については、UICC6版からUICC7版へ改定された。また2013年12月には「がん登録等の推進に関する法律」が成立し、2016年1月1日より施行され、全国がん登録が開始となっている。がん登録における環境の変化と共に、求められる登録項目も変化している。院内がん登録においても2016年症例から新たな標準登録様式に改定され登録項目も変更となる。

今回、改定前の最後の年である2015年症例について当院の登録実績を項目毎に取り纏めたので報告する。

II. 院内がん登録件数年次推移

冒頭でも述べたが、院内がん登録の登録項目の1つであるTNM分類が6版から7版に変更となった

2012年以降の4年間の登録件数推移をみると、年々がん登録の件数が増加傾向にある。2015年症例は2,195件の登録数となり、前年対比で408件のプラスとなった。男女比では男性1,169件(53.3%)、女性1,026件(46.7%)で男性が50%強の登録割合でこの4年推移している(図1)。

III. 部位別登録件数年次推移

2015年症例登録数2,195件のうち、5大がんでは、胃：197件(全体構成比9.0%)、大腸：387件(全体構成比17.6%)、肝臓：61件(全体構成比2.8%)、肺：205件(全体構成比9.3%)、乳房：163件(全体構成比7.4%)で、大腸の占める割合が全登録部位の中で一番高く、登録件数も年々増加している(図2・図3)。

5大がん以外では①脳・中枢神経系335件(全体構成比15.3%)、②前立腺163件(全体構成比7.4%)、③子宮頸部97件(全体構成比4.4%)が2015年登録件数上位部位となっている(図2・図4)。

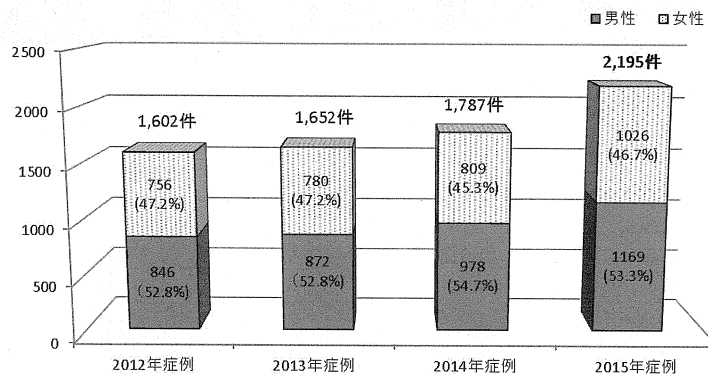


図1 院内がん登録年次推移

- 1) 医療情報室 がん登録担当
- 2) 臨床研究検査科
- 3) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

部位	2012年 症例	2013年 症例	2014年 症例	2015年 症例	構成比 (%)	2015年症例 男女別内訳			
						男性	構成比 (%)	女性	構成比 (%)
胃	181	179	205	197	9.0%	135	11.5%	62	6.0%
大腸	244	284	346	387	17.6%	230	19.7%	157	15.3%
肝臓	98	71	78	61	2.8%	46	3.9%	15	1.5%
肺	176	211	199	205	9.3%	132	11.3%	73	7.1%
乳房	148	161	185	163	7.4%	2	0.2%	161	15.7%
口腔・咽頭・喉頭	37	31	34	38	1.7%	30	2.6%	8	0.8%
食道	34	48	27	30	1.4%	26	2.2%	4	0.4%
胆嚢・胆管	31	28	34	46	2.1%	25	2.1%	21	2.0%
脾臓	71	65	56	65	3.0%	37	3.2%	28	2.7%
骨・軟部	18	14	13	8	0.4%	4	0.3%	4	0.4%
皮膚	48	43	52	58	2.6%	28	2.4%	30	2.9%
子宮頸部	80	78	73	97	4.4%	-	-	97	9.5%
子宮体部	40	33	36	44	2.0%	-	-	44	4.3%
卵巣	16	23	15	20	0.9%	-	-	20	1.9%
前立腺	132	102	119	163	7.4%	163	13.9%	-	-
膀胱	55	62	75	79	3.6%	58	5.0%	21	2.0%
腎・他の尿路	44	51	71	88	3.1%	47	4.0%	21	2.0%
脳・中枢神経系	45	67	53	335	15.3%	137	11.7%	198	19.3%
甲状腺	21	19	21	16	0.7%	5	0.4%	11	1.1%
悪性リンパ腫	39	24	33	39	1.8%	22	1.9%	17	1.7%
他の造血器腫瘍	7	8	8	15	0.7%	7	0.6%	8	0.8%
他の疾患	37	50	54	61	2.8%	35	3.0%	26	2.5%
総計	1,602	1,652	1,787	2,195	100.0%	1,168	100.0%	1,026	100.0%

図2 院内がん登録2012-2015年症例 部位別登録件数内訳

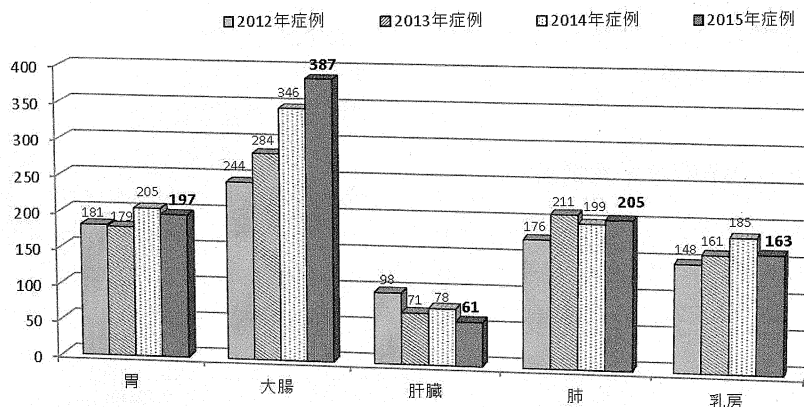


図3 院内がん登録件数 年次推移【5大がん】

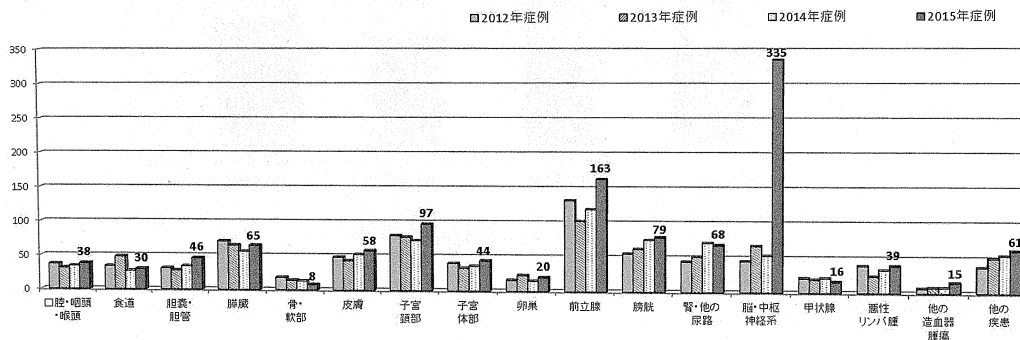


図4 院内がん登録件数 年次推移【5大がん以外】

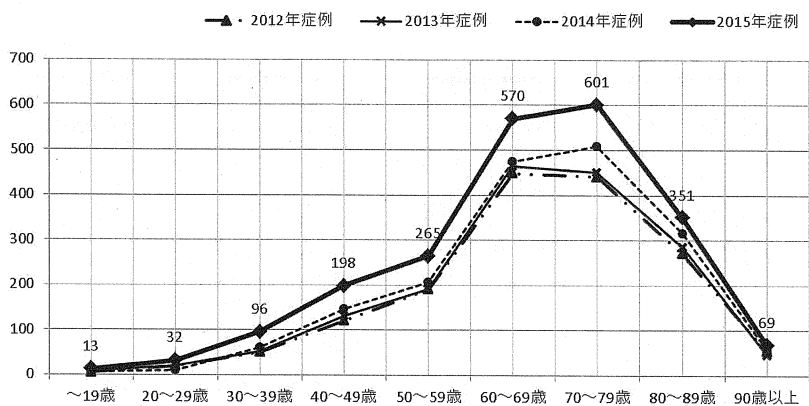


図5 10歳年齢階層別件数比較 - 年次推移 -

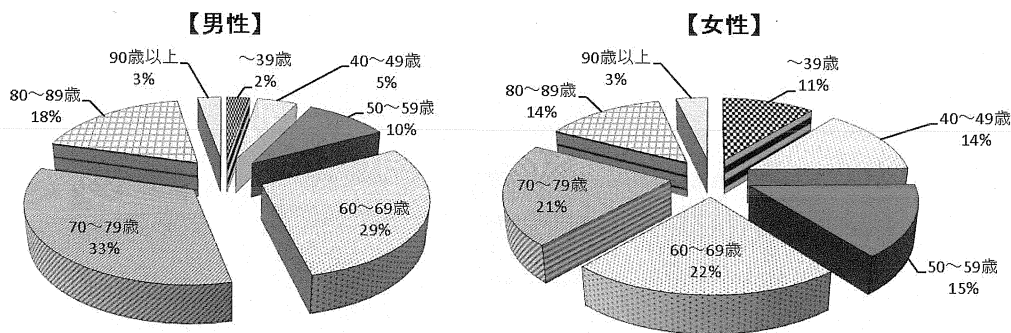


図6 2015年症例 年齢階層別件数比率 - 男女別 -

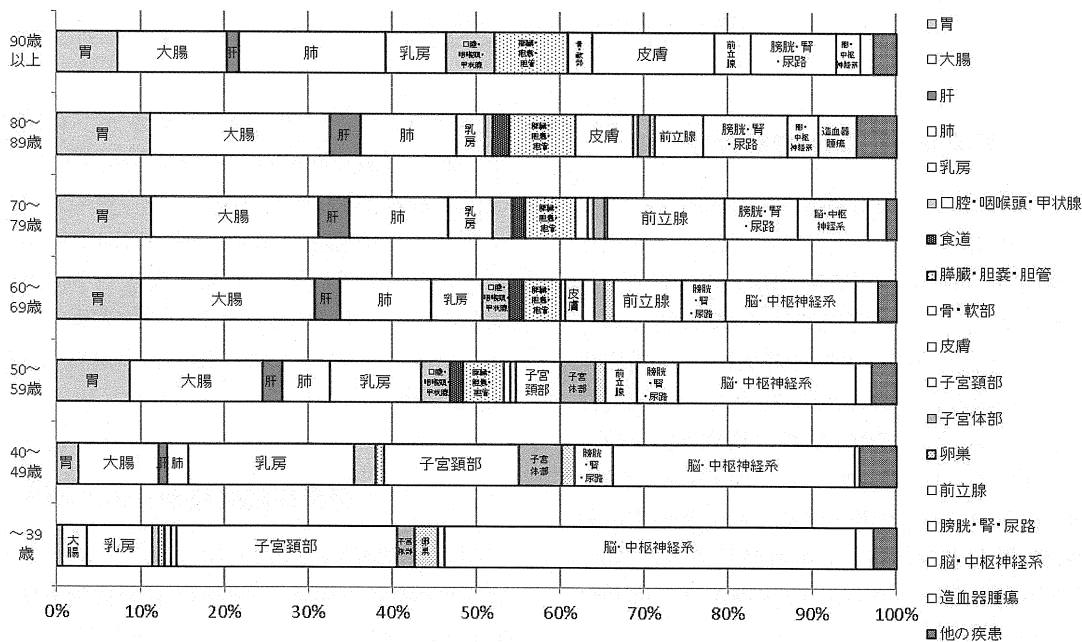


図7 2015年症例 10歳年齢階層別原発部位比率

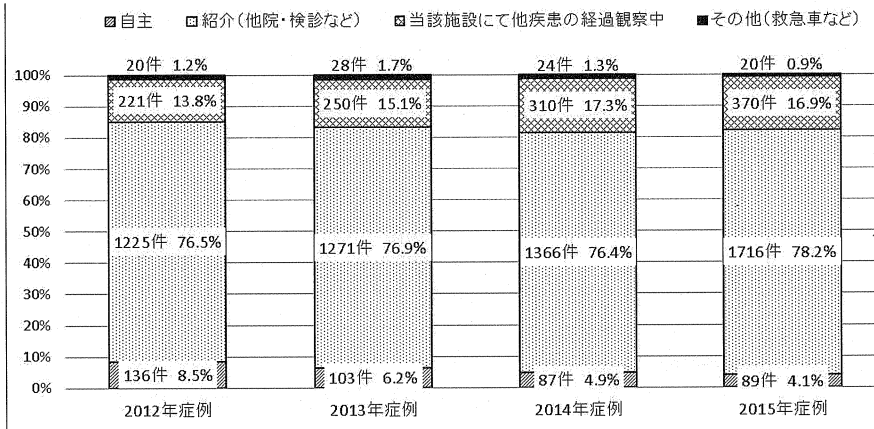


図8 患者来院経路比率 - 年次推移 -

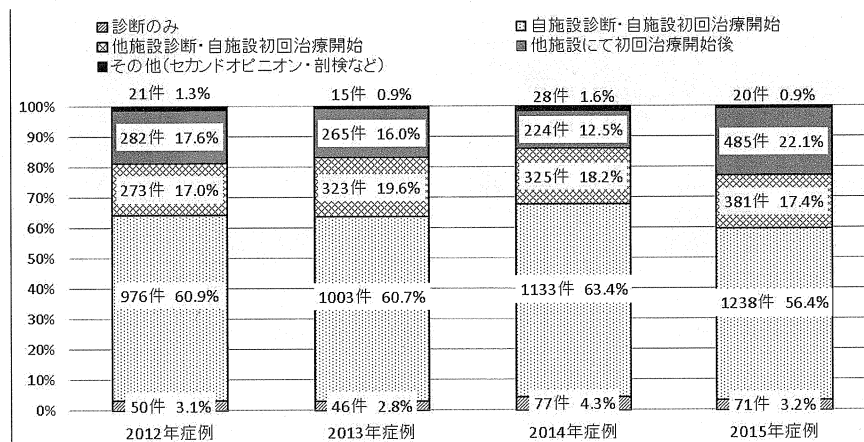


図9 症例区分比率 - 年次推移 -

IV. 男女別・年齢別登録件数

2015年症例登録数上位5部位は、男性では①大腸230件(構成比19.7%)、②前立腺163件(構成比13.9%)、③脳・中枢神経系137件(構成比11.7%)、④胃135件(構成比11.5%)、⑤肺132件(構成比11.3%)となった。女性では①脳・中枢神経系198件(構成比19.3%)、②乳房161件(構成比15.7%)、③大腸157件(構成比15.3%)、④子宮頸部97件(構成比9.5%)、⑤肺73件(構成比7.1%)の順になっている(図2)。

院内がん登録で登録した患者のがん確定診断時の年齢を基準に10歳年齢階層別に年次推移をみると、2012年・2013年は60歳代が一番多かったが2014年・2015年は70歳代が一番多い結果となった(図5)。男女別に2015年症例の年齢階層別件数比率をみると、

男性は70歳以上が50%強を占めるが、女性は70歳以上が40%未満で49歳以下が25%と女性全体の1/4を占める割合となった(図6)。

また、2015年症例を10歳年齢階層別に原発部位比率でみると、49歳以下の若年層は乳房や子宮頸部など婦人科系や脳・中枢神経系の部位比率が高く、年齢階層が上がるにつれ胃や大腸、肺の比率が高くなる結果となった(図7)。

V. 患者来院経路からみた傾向

院内がん登録の調査項目の1つでもある患者来院経路(当該腫瘍の診断・治療のため自施設を受診した経路)を年次推移で比較すると、2015年症例では「自主的に受診」比率は4.1%となっており年々減少傾向

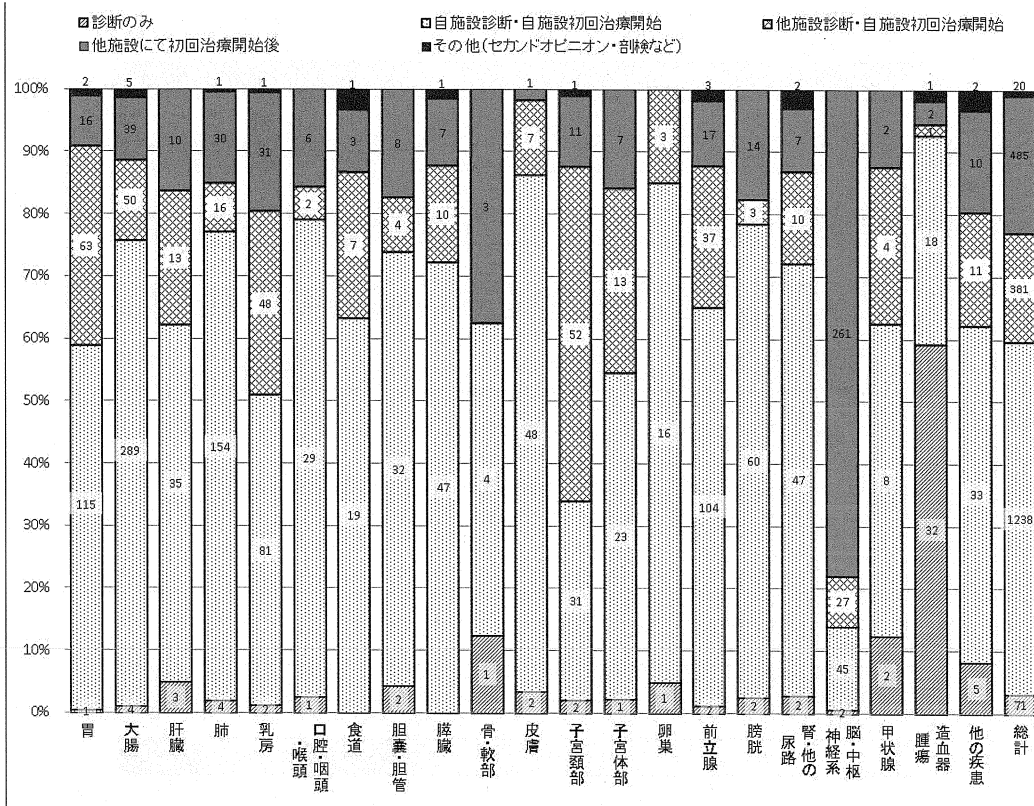


図10 症例区分比率 - 部位別2015年症例 -

にある。また「他院・検診などからの紹介」比率は78.2%で前年より高くなった(図8)。

VI. 症例区分からみた傾向

症例区分(初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより区分)を年次推移で比較すると、2015年症例では「他施設にて初回治療開始後」の比率が22.1%と高い結果となった(図9)。

要因としては、医師転勤に伴う患者動向の変化によるものと思われる。院内がん登録のルール上、他院で治療後のフォローアップ目的の紹介症例でも、当院で初診・初回登録であれば登録可能となる。2015年症例において、脳・中枢神経系の登録件数増加がこの要因に該当し、登録数335件の内261件(78%弱)が「他施設にて初回治療開始後」となった為である(図10)。

VII. 2015年症例からみた5大がんステージ別登録比率

2015年症例の5大がんについて、治療前のステージ

別比率をみると、胃や大腸は0期やI期での発見が50%を上回る結果となった。また、肺はⅢ期・Ⅳ期での発見が40%強という結果となった。乳房は「他院で治療開始後」の登録件数割合が高くなっている(図11)。

VIII. 院内がん登録患者住所別にみた傾向

患者住所別に年次推移をみると、2015年症例では、広島市内の登録数は1,486件で構成比率67.7%、広島市以外の県内の登録数は614件で構成比率28.0%、広島県外の登録数は95件で4.3%という結果となった(図13)。

次に患者住所を区市町別に年次推移をみると、広島市内のがん登録件数年次推移では南区・西区の登録件数が年々増加傾向にある(図14)。

広島市以外のがん登録件数年次推移では廿日市市、安芸郡海田町、安芸郡熊野町、呉市、東広島市、江田島市の登録件数が50件を超える結果となった。また県外の登録件数も増加している(図15)。

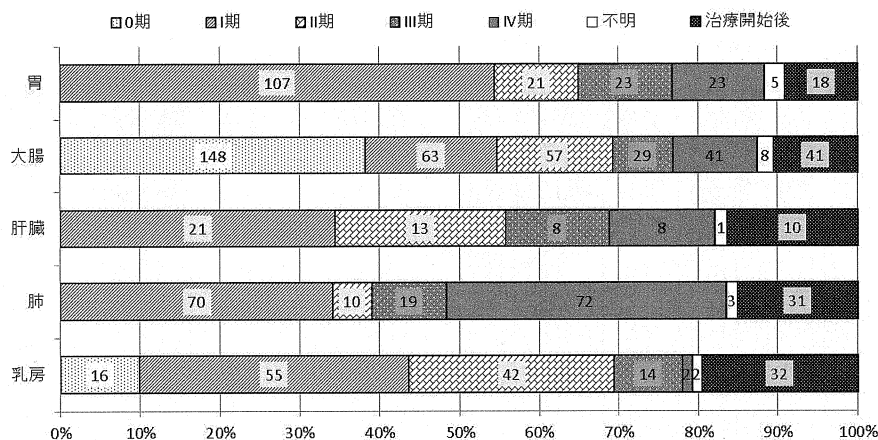


図11 5大がん 2015年症例 - 治療前 Stage (UICC 7版) 比率 -

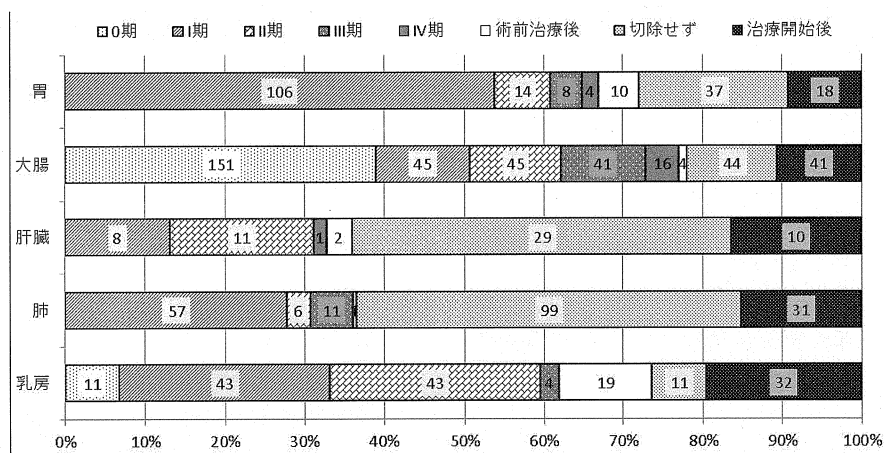


図12 5大がん 2015年症例 - 術後病理学的 Stage (UICC 7版) 比率 -

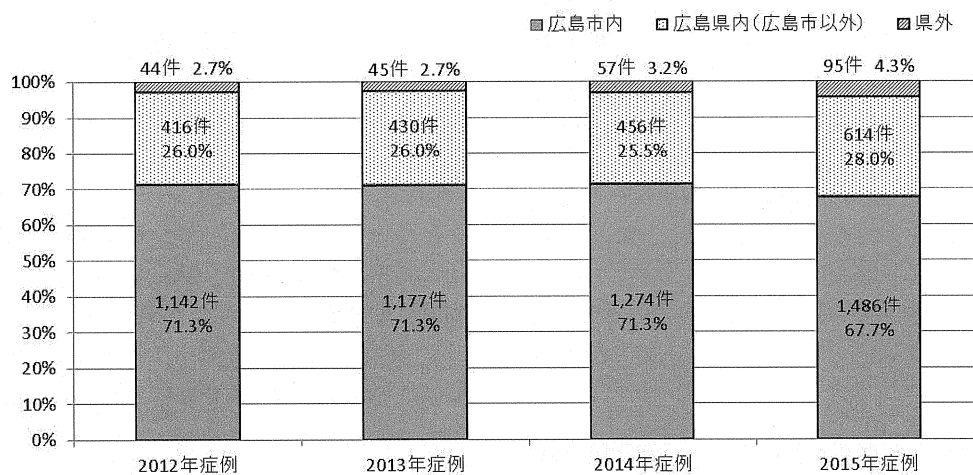


図13 院内がん登録患者住所別件数比率 - 年次推移 -

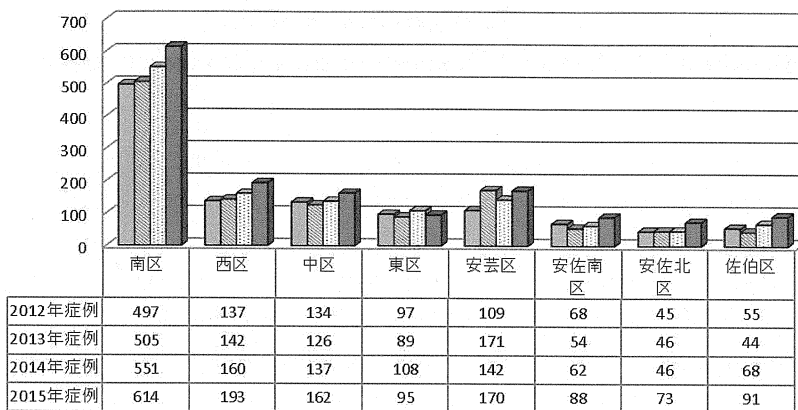


図14 がん登録件数年次推移 - 広島市内 -

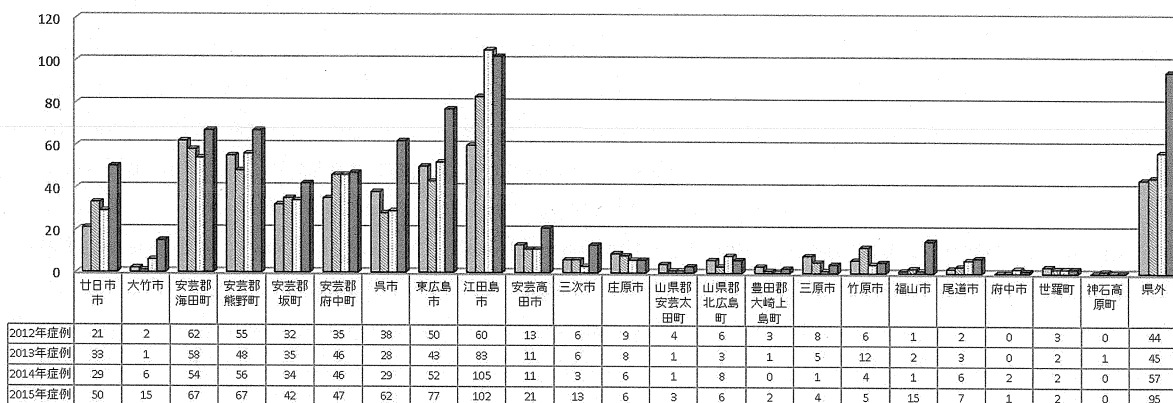


図15 がん登録件数年次推移 - 広島市以外 -

Ⅹ. まとめ

(1) 2015年症例は2,195件の登録実績で、前年対比プラス408件となった。

(2) 臓器別では大腸、脳・中枢神経系、前立腺、子宮頸部で登録数が前年より増加した。

男女別でみると男性①大腸、②前立腺、③脳・中枢神経系、④胃、⑤肺となり、女性①脳・中枢神経系、②乳房、③大腸、④子宮頸部、⑤肺の順で多い結果となった。

年齢階層別にみると、2015年症例全体では70歳代の登録件数が一番多くなっている。男女別では、男性は70歳以上が50%強を占めているが、女性は49歳以下が25%と多く、乳房や子宮頸部など婦人科系の部位登録件数が多い。

(3) 患者来院経路では、「自主的に受診」比率は減少傾向にあり、「他院・検診からの紹介」比率が高くなっている。

(4) 症例区分では、脳・中枢神経系の患者動向の変化に伴い登録件数が増加した。その結果、「他施設にて初回治療開始後」症例の比率が22.1%と高くなっている。

(5) 5大がんを治療前のステージ別比率で見ると、胃や大腸は0期・I期での早期発見が多いが、肺では進行がんでの発見も多い結果となっている。

(6) 患者住所別にみると、広島市内の登録が全体の67.7%を占める結果となった。また、二次保健医療圏では呉・広島中央圏の登録件数が増加している。

(7) 2016年症例から全国がん登録開始に伴い院内がん登録の標準登録様式も改定される。登録精度向上と共に、分析する項目の選定や生存情報についても今後取り纏めていく必要があると考えられる。

Case performance reporting: The Hiroshima Prefectural Hospital in-hospital cancer registry in 2015

Toshiaki Yamamoto¹⁾, Miwa Maeda¹⁾, Kikuko Fujita¹⁾,
Hisashi Murakami¹⁾, Takashi Nishizaka²⁾, Noriyuki Fukushima³⁾

- 1) Department of medical information room in charge of Cancer Registration
- 2) Department of Pathology and Clinical Laboratory Medicine
- 3) Department of Otolaryngology Head and Neck Surgery

Summary

We herein report the results of our analysis of the in-hospital cancer registration in 2015. In 2015, we registered 2195 cases, which is 408 cases more than in the previous year. The numbers of registered cases involving the colon, brain and central nervous system, prostate, and cervix uteri were increased from the previous year. By gender, the number of registrations were highest in men in descending order as follows: colon, prostate, brain and central nervous system, stomach, and lung; similarly, the numbers were highest in women in descending order as follows: brain and central nervous system, breast, colon, cervix uteri, and lung. By age, patients in their 70s accounted for the largest number of registrations. By gender and age, men over 70 years of age accounted for over 50% of men registrations, while women over 70 years of age accounted for less than 40% of women registrations; women patients ≤ 49 years of age accounted for more than 25% of women registrations. Such young patients were usually registered for cancer of the gynecological system, thus including the breast and cervix uteri.

We noted a decreasing trend in the numbers of voluntary visits when we analyzed the annual change in the patient visit route, an item assessed on cancer registration; consequently, the number of introductions from other hospitals increased. Regarding the “case category”, we noted an increasing trend in the number of registrations for cancer of the brain and central nervous system and, as a result, the number of cases that were identified after treatment initiation was as high as 22.1%.

Regarding the cancer stage at the five major sites, early-stage stomach and colon cancer (stages 0 and I) accounted for a majority of cases, but many cases of advanced lung cancer (stages III and IV) were also noted. Many patients were referred for breast cancer after the start of treatment. An analysis of cancer registry patients' addresses revealed that Hiroshima City residents accounted for 67.7% of cases, with residents of Minami-ku constituting the largest proportion when broken down further by ward. Regarding the regions of Hiroshima prefecture outside Hiroshima City, we observed an increasing trend in the numbers of consultation patients from Hatsukaichi-shi, Aki-gun Kaita-cho, Aki-gun Kumano-cho, Kure-shi, Higashi-Hiroshima-shi, and Etajima-shi compared with the previous year.